

現場風景・あかり光景 71

人生の岐路を全身にまとい通勤・通学客を運ぶ電車のあかり光景
～あかりに浮かぶ窓の向こうは非日常の世界？～



夜の闇に溶けるかかる深く濃い青を背景に、Y字路が白く浮かぶ謎の電車

2009年11月下旬に撮影した、JR加古川線（撮影地は兵庫県西脇市・西脇駅）のラッピング電車である。先日、写真データの整理をしていて、久しぶりに巡り合ったので、改めてご紹介したい。

地元にはゆかりの漫画家が描いた各種のキャラクター、あるいは地元を舞台に描かれた漫画・アニメ作品などのキャラクターを電車やバスの外装に描くことが、当時は流行っていた。

筆者は地方都市へ行くたびに、そうした車両の写真を撮影してきた。この加古川線のラッピング電車の絵柄は、そうした数多くの事例のなかでも抜きん出て個性的であり、また芸術的な感興も深いものだった。

絵柄の作者は世界的なアーティストとして知られる横尾忠則さん。横尾さんは西脇市の出身で名誉市民でもあり、また西脇市には横尾さんを記念した美術館もある。

このラッピング電車のテーマは「Y字路」。西脇市にの市街地には

なぜかY字路が多く、横尾さんはこのY字路をテーマにした写真集や画集も出している。よく目を凝らしてみると分かるのだが、この電車にはいくつものY字路が描かれている。

その路地の向こうには迷宮の世界が待っているのか。あるいは蠱惑的な街か、怖い街が待っているのか……。そんな想像をしてみるのは、旅人のセンチメンタルな想いでしかないのかもしれない。

通勤帰り・通学帰りと思しい地域の人々はみな疲れた様子で席に深々と座っており、あるいは吊革につかまったりまま、自分たちが今「迷宮行き？ あるいはパラダイス行き？」の電車に乗っているかもしれないことに、まるで気付いていないかのようにだった。

そんなことを想う当方を置き去りにしたまま、Y字路（人生の岐路？）を全身にまとったラッピング電車は、夜の闇の中に消えていった（※このラッピング電車は2012年度で廃止された）。